

新シリーズ 『ピアノ音楽の楽しみ方』 (3)

” 名曲の名演奏を聴き比べながら、ピアノ音楽の歴史を学ぼう！ ”

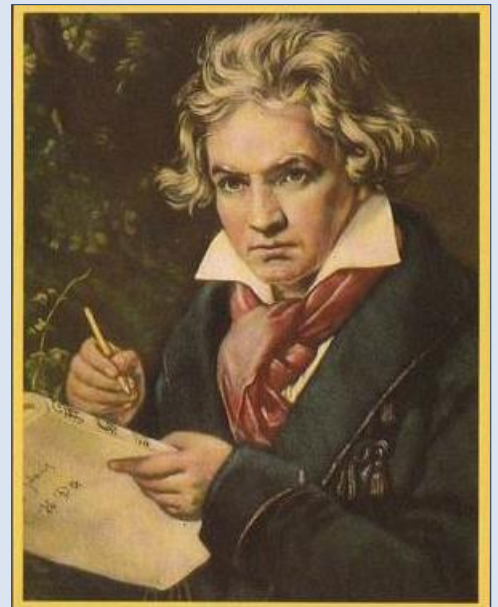
< 第三回目の内容 >

ピアノ曲における古典派からロマン派への橋渡しは ベートーヴェンによって成された！

バッハの息子たちやハイドンにより確立された古典派音楽は天才モーツァルトによって相次ぎ改良されるフォルテピアノに適用されて発展、古典派ピアノ音楽は隆盛期を迎えることになる。

この動きを継承し飛躍的に進化させたのが14歳年下のベートーヴェンだった。古典派ピアノ音楽は彼の初期ピアノソナタ時代、中でもその代表作ソナタ第8番『悲愴』で早くもピークを迎える。やがて18世紀に入るや名曲「月光」ソナタが誕生。今ではこの曲を古典派ではなく一気にロマン主義の嚆矢と看做す学者も多い。果たしてその通りであろうか。今回の試聴ではこの点も含めて一緒に検証してみたい。

今回取り上げる演奏は「悲愴」ソナタでは、従来通りグレン・グールドから始めてバックハウス、ホロヴィッツ、グルダ、ギレリスを、「月光」ソナタではグールド、ケンプ、クン・ウー・パイク、ファジル・サイなどを聴き比べてみたい。



又時間があれば、1910年代日本最古の録音である沢田隆吉氏と気鋭の若手アルチュールとルーカス兄弟による最新の2010年代の「悲愴」か「月光」(何れも持参)もご試聴願いたく。 お楽しみに！

日 時 / 2015年1月31日(土) 9:30~12:00

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 高橋 敏郎 シリーズ 全10回

参加自由・入場無料

問合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>